

山中煎餅本舗

代表

渡部ひとみさんに

聴く



1978年生まれ。結婚後は千葉県で夫と子ども2人での生活を送っていましたが、2011年に家業を継ぎ、千葉県と喜多方を往来する生活となりました。2017年には、拠点を喜多方に移し、山中煎餅本舗の経営者、そして職人として老舗の伝統を受け継いでいます。

1900(明治33)年創業。せんべいの製造、販売。100年前から変わらない製法で、一枚一枚、職人の手によって焼き上げられる山中煎餅本舗のせんべい。レンガ窯の炭火は、赤々とせんべいを内側まで熱し、風味を逃さない。原材料を吟味し、蔵のまち喜多方ならではの味を伝えていきたい。そんな願いが込められています。

全国推奨観光土産品審査会では、「喜多方たまりせんべい16枚箱」が日本観光振興協会会長賞を受賞。同審査会では3年連続受賞。

日本の優れた商品やサービスを国内外に発信する「おもてなしセレクション2018」では、サービス・体験部門で「せんべい炭火焼き体験」が受賞。(東北唯一)



経営者となったきっかけを教えてください。

幼い頃から職人のせんべい焼きの後ろ姿をずっと見てきました。私は4人兄弟の次女ですが、せんべい屋が好きな気持ちは変わらないうたので、先代が亡くなって家業を継ぐことを決めました。

経営の中で特徴的なことはありますか。

経営に関しては全くの素人でしたので、まずは店内や窯場の掃除、道行く人に笑顔であいさつすることから始めました。また、お客様目線でのような商品を買いたいのか、お店に入ってどんなことが嬉しいのかを考え、商品や接客などを全体的に見直しました。

伝統を残しながらもかわいらしさを取り入れ、現在の経営に活かしています。



せんべい焼き体験の指導をするひとみさん

働きやすい職場としての工夫はありますか。

従業員の家族が利用する介護サービスの送迎時や、家族の体調不良などの事情に対応できるよう、シフトを交換できる体制をとっています。

これまでの取り組みでの成果や課題などありますか。

私が千葉県でパート勤務をしていた時、仕事と育児の両立がとても難しかったので、家庭を大切にしたいという思いがありました。職場の体制整備や周囲の理解、信頼関係で、従業員同士助け合い、作業の分担をしています。一時的に仕事を抜けた従業員が戻った後は、より一層の頑張りです仕事に専念しています。

普段から大切にしていることは何ですか。

まずは自分の笑顔で身近な人、家族や従業員、お客様に笑顔になつてもう一つ。そして、その人たちを取り巻く周囲の方々にも笑顔になつてもらい、笑顔の連鎖が

続いていけば嬉しいです。

男女共同参画社会とはどのような姿と考えますか。

我が家では、長男長女それぞれが1歳の頃に約2年間、夫が家事育児をしました。私は仕事の大変さを知り、夫は子育ての大変さを知ることができました。

男女共同参画社会とは、固定観念を持たず柔軟に思いやりを持って協力していく社会のことだと思います。

今後の抱負を教えてください。

100年以上続く伝統の製法を大切に、新しいことも取り入れていきたいと思っています。そして、全国の方々に『たまりせんべい』を知ってもらい、喜多方を訪れて欲しいと思います。その際は、笑顔で最高のおもてなしをさせていただきます。

取材内容は市ホームページにも掲載しています。

問 企画調整課 企画調整班
☎(24)5209